

酸性薬剤の投与方法を変更した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、注射薬の投与方法を確認することで、血管痛等の有害事象を回避することができたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶敗血症性ショックに対し加療中の患者

【投与予定の注射薬】

ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用 100mg 1V
生理食塩水 50mL

Dさん



Dさんにミノサイクリンの注射がオーダーされている。
1バイアルを 50mL の生理食塩水で溶解して使用するのか。

ミノサイクリンの注射薬は pH が低い酸性の薬剤のため、末梢から投与する際に血管痛や静脈炎が起こりやすい薬剤です。
1バイアルを 100mL で溶解(1mg/1mL)することで、血管痛や静脈炎が起こりにくくなるという報告があるので、水分制限などなければ、溶解液量を 50mL から 100mL に変更できないでしょうか。

酸性の薬剤なんですね。
Dさんは水分制限のない患者さんなので、安全のために溶解液量を 100mL に変更しましょう。
ありがとうございます。

変更ありがとうございます。
もし、100mL で溶解しても血管痛などが起こった場合は、投与時間を長くすることで回避できる場合がありますのでご検討ください。

ミノサイクリン 1 バイアルを 100mL の生理食塩水で溶解し投与することで、血管痛などの発症なく経過した。

注射薬の投与方法を確認することで、安全な薬物療法の提供に貢献できた。



医師



薬剤師

